

第138回 中小企業景況調査報告書(概要版)

平成 25 年 10 月～12 月実施

平成 26 年 1 月～ 3 月予測

福岡県商工会連合会





















この調査は、中小企業の景気動向について、その実態と要因を四半期ごとに分析し、業種間の比較によって差異分析を行い、その分析結果に基づき、今後の経営活動の健全な発展を図るために業種別の景況情報を提供する。

1. 調査方法 商工会の経営指導員による訪問及び面接聞き取り調査
2. 調査時点 平成 25 年 11 月 15 日 (金)
3. 調査対象時期 平成 25 年 10 月～12 月
4. 調査対象企業 須恵町・筑紫野市・糸島市・筑前町・田主丸町・柳川市・水巻町・みやこ町・飯塚市・大任町
5. 回答企業 149 企業 (有効回答率 99.3%)






製造業		建設業		小売業		サービス業	
企業数	構成比	企業数	構成比	企業数	構成比	企業数	構成比
29	19.5%	21	14.1%	41	27.5%	58	38.9%

☑ 県下産業全体 (業況:売上額 D.I)

➡ **建設業で一服感が見られ始め、全業種で業況が悪化傾向**

期間	製造業		建設業		小売業		サービス業	
平成 24 年 10 月～12 月		△34.7		△25.0		△32.5		△26.7
平成 25 年 1 月～3 月		△50.0		△10.0		△72.5		△24.5
平成 25 年 4 月～6 月		△57.1		0.0		△41.5		△19.6
平成 25 年 7 月～9 月		△13.8		0.0		△44.0		△12.1
平成 25 年 10 月～12 月		△41.4		△19.1		△46.3		△23.2

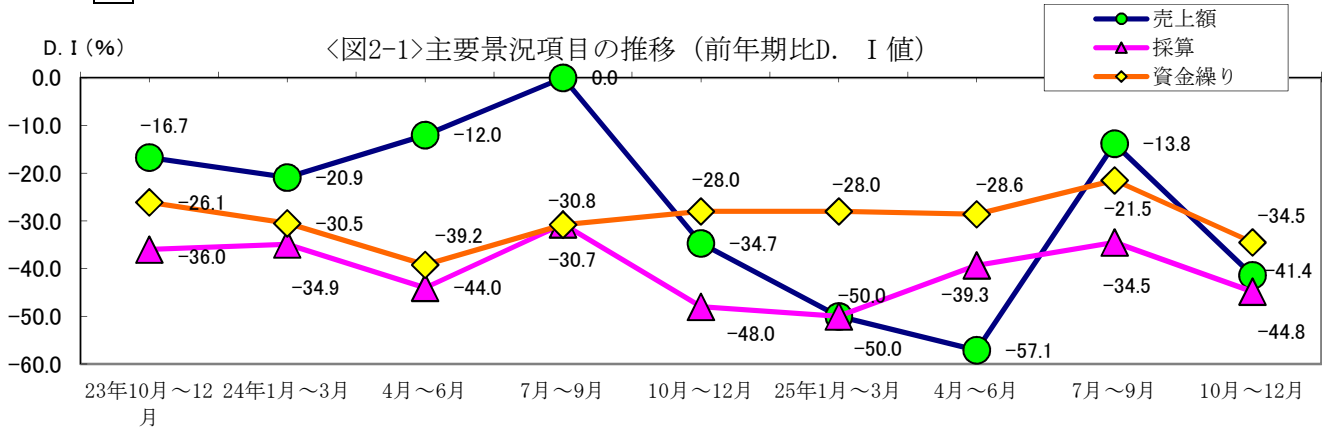
< 天気図の見方 >

D.I 値	100.0～30.1	30.0～10.1	10.0～△10	△10.1～△30	△30.1～△100
表示	 【快晴】 +30.1 以上	 【晴れ】 +10.1 ～30.0	 【薄曇り】 △10.0 ～△10.0	 【曇り】 △30.0 ～△10.0	 【雨】 △30.1 ～△100

県下産業全体の売上額 D.I 値を前年同期 (平成 24 年 10 月～12 月) と比較すると 3.0 ポイント悪化、前回調査時 (平成 25 年 7 月～9 月) と比較すると 13.0 ポイント悪化している。前年同期からの悪化の要因は、建設業とサービス業では改善が見られるものの、製造業が 6.7 ポイントの悪化、小売業が 13.8 ポイントの悪化が影響している。前回調査時からの悪化の要因は全業種で悪化に転じ、特にサービス業を除く 3 つの産業で 10 ポイント以上の大幅な悪化がみられ売上額 D.I 値の大幅な悪化に影響を与えている。

☑ 製造業 (有効回答数 29 企業)

➡ 原材料価格高騰の影響で価格転嫁できない中小企業にとって依然厳しい状態



＜調査企業が感じている景気判断コメント＞

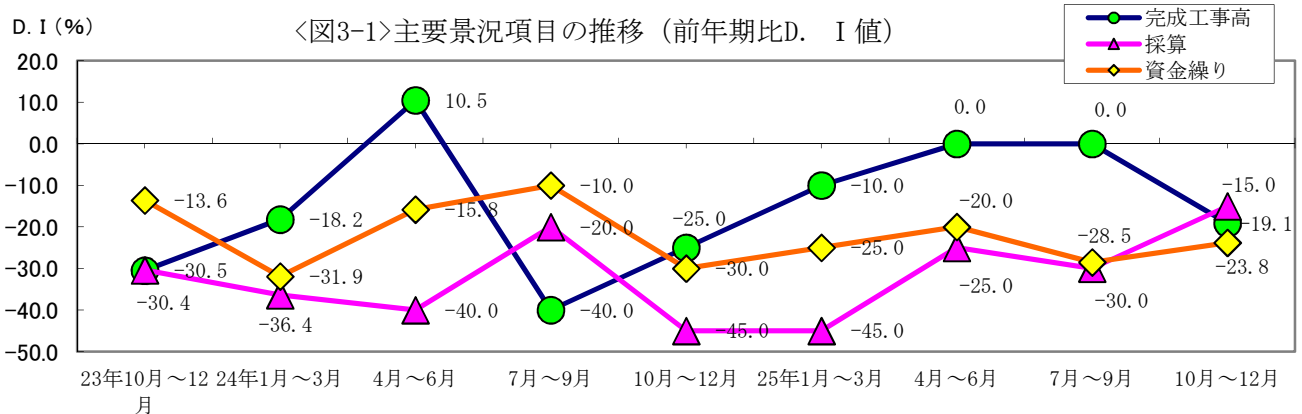
- ・原料小麦や電気、重油等の値上がりがある中、製品価格に転嫁できず利益を圧迫しています。売上も思うように増加せず苦しい経営状況です。また、来年は消費税の増税により更なる売上の減少にならないか不安です。(めん類世蔵業)
- ・製造業全般で需要が低下している。設備の一巡により引合がすべてにおいて低下している為で景気の回復はゆめのような論であると思います。当社としては新商品の開発こそ次の代への回答と思っております。(配電盤・電力制御装置製造業)
- ・単価の下げ合いの競争による仕事の取り合いが続いており、どこまで続くのか不安である。(その他の研磨材等製造業)

＜経営上の問題点＞

前期	今期
第1位 需要の停滞 28.6%	第1位 生産設備の不足・老朽化 32.1% (+10.7)
第2位 原材料価格の上昇 21.4%	第2位 需要の停滞 17.9% (-10.7)
第3位 生産設備の不足・老朽化 21.4%	第2位 製品単価の低下、上昇難 17.9% (+14.3)

☑ 建設業 (有効回答数 21 企業)

➡ 引き続き好調であるが、徐々に一服感が見られ始める傾向



＜調査企業が感じている景気判断コメント＞

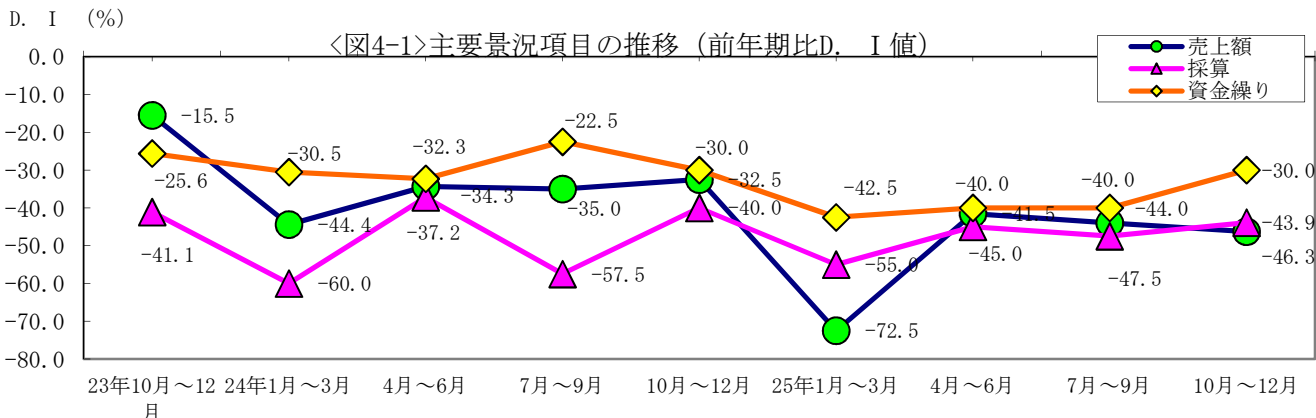
- ・消費税増税前のかけ込み需要が今でも見られるが、来年度の見積がすでに減少している。(鉄骨工事業)
- ・消費税増税を前に引き合いが活発。大手が材料の買い占めを行って材料価格の上昇、入手難が生じている。見積後の材料価格上昇については、価格転嫁出来ない。(木造建築工事業)
- ・受注が増えてきたのは感じるが利益につながるものかは心配する。このまま続けば設備労力の増加も考えるが、いまいち不安である。(土木工事業)

＜経営上の問題点＞

前期	今期
第1位 請負単価の低下、上昇難 22.2%	第1位 請負単価の低下、上昇難 22.2% (—)
第1位 材料価格の上昇 22.2%	第1位 材料価格の上昇 16.7% (-5.5)
第3位 従業員の確保難 11.1%	第3位 事業資金の借入れ難 11.1% (—)
	熟練技能者の確保難・下請業者の確保難

☑ 小売業 (有効回答数 41 企業)

➡ **コンビニエンスストア等大手小売業の影響で、依然厳しい状況が続く**



＜調査企業が感じている景気判断コメント＞

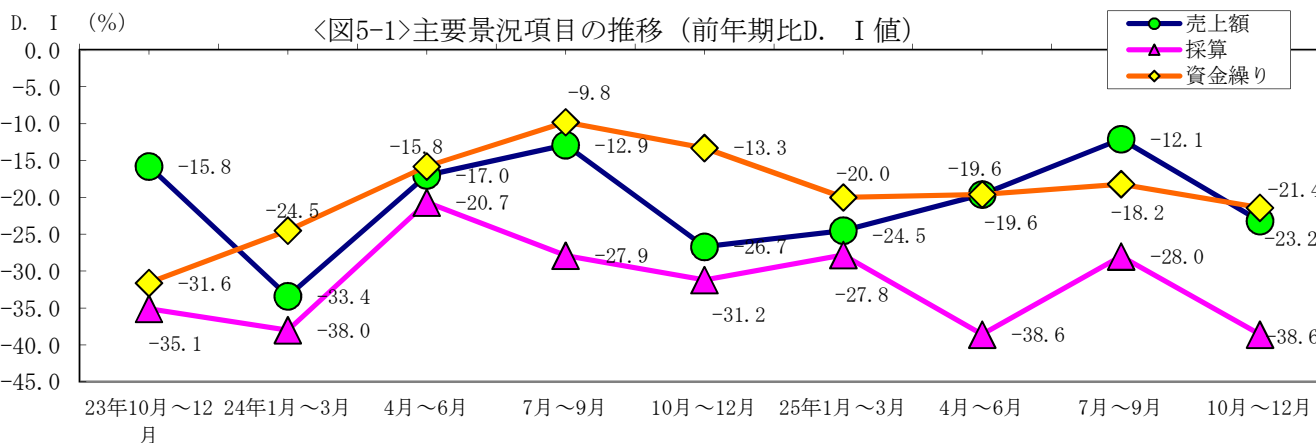
- ・大型小売店、他系列コンビニの出店が長く続いており、先行きに明るさを感じられない。最低賃金上昇で、採算性が悪化しそう。(コンビニエンスストア)
- ・メーカー側もコンビニ重視になっているので小売店への活動がない。(各種食料品小売業)
- ・今日の世の中の変動により、同業者の進出は仕方のないことだと思います。互いに勉強し、お客様に納得して頂く商品作りに励み、来客に努めたいと思います。何事も自分自身、毎日が勉強です!! (菓子小売業)

＜経営上の問題点＞

前期	今期
第1位 大型店・中型店進出による競争の激化 35.0%	第1位 大型店・中型店進出による競争の激化 30.8% (-4.2)
第2位 同業社の進出 17.5%	第2位 購買力の他地域への流出 15.4% (+2.5)
第3位 購買力の他地域への流出 12.5%	第3位 消費者ニーズの変化 10.3% (+0.3)

☑ サービス業 (有効回答数 58 企業)

➡ **消費者の低価格志向・節約志向の影響で、引き続き足踏み状態**



＜調査企業が感じている景気判断コメント＞

- ・昨年よりは、忘年会等の予約は増加している。但し、顧客の低価格志向は根強くある。(酒場・ビアホール)
- ・消費税増税の決定を受け、消費者が他の大型買物にお金を使っており、外食費を削減しているようである。10%の消費税率が浸透してしまうまでは、回復は見込めないと思う。(日本料理店)
- ・周辺に同業者が他に3店舗あり、店舗の老朽化と店内が狭いこと。併せて長男の美容業と併設。理髪での需要は美容へと多様化し、少子高齢化の地域としては、依然として経営が厳しい状況である。(理容業)

＜経営上の問題点＞

前期	今期
第1位 需要の停滞 19.1%	第1位 需要の停滞 26.1% (+7.0)
第2位 利用者ニーズの変化 14.9%	第2位 利用者ニーズの変化 21.7% (+6.8)
第3位 店舗施設の狭隘・老朽化 12.8%	第3位 店舗施設の狭隘・老朽化 12.8% (—)